

平成20年度（第52回）
岩手県教育研究発表会発表資料

小学校外国語

小学校外国語活動の推進に関する研究

モデルカリキュラムと校内研修プログラムの作成をとおして

《研究協力員》

花巻市立矢沢小学校 教諭 小 椋 孝 史
遠野市立上郷小学校 教諭 古 川 淑 美
一戸町立奥中山小学校 教諭 稲 森 真 由 美

平成21年1月6日
岩手県立総合教育センター
教科領域教育担当
遠 山 秀 樹
齋 藤 義 宏
上 柿 剛

《 目 次 》

研究目的	1
研究の方向性	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
1 研究の目標	1
2 研究内容与方法	2
研究結果の分析と考察	2
1 第1年次研究の概要	2
2 研究の方向性の修正	3
(1) 国の動静	3
(2) 研究の方向性の修正	5
3 校内研修プログラムの作成	6
(1) 校内研修プログラムとは	6
(2) 校内研修プログラムの要件について	6
(3) 校内研修プログラムの内容と概要	7
4 小学校外国語活動の推進に関する研究のまとめ	19
研究のまとめと今後の課題	20
1 研究の成果	20
2 今後の課題	20

おわりに

【引用文献】

【参考文献】

研究目的

進展する国際社会のグローバル化等の課題に対応するため、小学生の柔軟な適応力を生かして、小学校における英語教育を充実することが求められている。文部科学省が実施した小学校英語活動実施状況調査結果(平成17年度)によると、全国の93.6%の公立小学校が英語活動を実施している。本県においても、同調査において第6学年の95.5%が実施しているとの回答がある。

しかし、本県の実態を分析すると、取組内容に相当のばらつきが見られ、学年の発達段階等に配慮した指導目標や指導内容、評価計画等を明確に位置付けたカリキュラムを基に実施しているとはいえない状況である。研究指定校や先進実践校の実践発表等はあるものの、その成果と課題を十分に分析・共有して指導に役立てていくことは今後の課題とされている。また、実際の指導に当たっても、授業の進め方や効果的な指導法について、学級担任及び担当教員が手探りで進めている現状がある。指導者が身に付けるべき指導力の具体化や校内研修への位置付け等、外国語活動の実践的指導力を高めるための取組が十分に進んでいないことが要因として考えられる。

このような状況を改善するためには、まず、先行研究や実践事例を基に、本県の小学校外国語活動における指導内容及び評価計画等をまとめ、モデルカリキュラムとして示す必要がある。さらに、このモデルカリキュラムを活用して、具体的な外国語活動の進め方やALTの活用方法などの実践的指導方法を身に付けるための校内研修プログラムを確立する必要がある。そして、指導者が自信をもって指導に当たったり、自ら指導方法を工夫したりできる力を高めることが大切である。

そこで、この研究は、小学校外国語活動におけるモデルカリキュラムと校内研修プログラムを作成し、各学校における活用を図ることで、小学校外国語活動の充実と外国語活動指導者の指導力向上に役立てようとするものである。

研究の方向性

本県の小学校外国語活動の充実と外国語活動指導者の指導力向上に資するため、本県における小学校外国語活動のモデルカリキュラムを作成すると共に、実践的指導力の向上を図るための校内研修プログラムを作成し、提示する。

研究の年次計画

この研究は、平成19年度から平成20年度にわたる2年次研究である。

第1年次(平成19年度)

先行研究の分析及び学習指導要領改訂に向けた審議状況を踏まえながら、本県の小学校外国語活動モデルカリキュラム作成の視点を検討する。また、小学校教員の実践的指導力の向上を図るための校内研修プログラムの要件を明らかにする。

第2年次(平成20年度)

新学習指導要領及び小学校外国語活動の指導に関わる資料から本研究内容を見直すとともに、第1年次研究の成果を基に、校内研修プログラムを作成する。

本年度の研究内容と方法

1 研究の目標

小学校外国語活動の基本的な考え方の理解や指導力向上を図るための校内研修プログラムを作成する。

2 研究内容与方法

- (1) 小学校外国語活動の基本的な考え方（文献法）
- (2) 校内研修プログラムの作成（文献法）

研究結果の分析と考察

1 第1年次研究の概要

(1) モデルカリキュラム作成の視点

小学校外国語活動の推進に当たっては、単にねらいを示すだけでなく、そのねらいを達成するための具体的なカリキュラムを提示することが必要である。モデルとするカリキュラムには、目標、指導内容の他、指導法、教材、評価等についても盛り込まれる必要があり、作成の視点を【資料1】にまとめた。

【資料1】小学校外国語活動のモデルカリキュラム作成の視点

視点	各校の状況や児童の実態に応じて選択可能なカリキュラム
視点	目標に応じた活動内容の設定
視点	言語機能を重視したシラバスの設定
視点	活動タイプの吟味：表現に慣れ親しむ活動から課題解決型の活動へ
視点	児童の実態に応じた題材・内容
視点	外国語活動の評価
視点	コミュニケーション能力の素地をつくる

(2) 教師の実践的指導力の向上を図るための校内研修プログラムの要件

ア 外国語活動指導者として、小学校学級担任に求められる資質（目指す教師像）

小学校外国語活動は、スキルを身に付けさせることを第一のねらいとするものではなく、児童に英語を使ったコミュニケーションを体験させることをとおして、異なる言葉や文化に関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることにある。そのため、児童にとって興味・関心のある活動を設定し、また、英語に対する不安を取り除くことが大切である。これらを実現させるためには、児童一人一人のことをよく理解し、児童にとって身近な存在である学級担任が指導に当たることが適当であるとされている。

外国語活動における学級担任の役割として、以下の内容があげられる。

- ・学校で作成した指導計画を基に、学級の実態に合う指導案や教材等を作成する
- ・英語を積極的に使うモデルとなる
- ・児童の英語に対する不安を取り除く
- ・ALT等との授業において、適切な指示や指名等を行い、授業をマネジメントする
- ・児童のつまづきを適切に支援し、ALTと児童との英語のギャップをうめる（通訳ではない）
- ・授業の目標に沿った評価を行い、児童の意欲や自信を高めるフィードバックを行う
- ・保護者に外国語活動のねらい、目標、学習内容等を知らせる

このような役割を果たすために、小学校学級担任に求められる資質を、次の三点と考える。

外国語活動のねらいや指導方法について理解している。
児童と共に外国語活動を楽しんでいる。
外国語活動の授業改善についての見通しをもつことができる。

イ 校内研修プログラムの内容

校内研修プログラムは、校内研修計画作成の手順と、一つ一つの研修内容及びその進め方、研修資料等から構成される。研修内容は、各校の実態に応じて内容を変更しながら研修を実施する。

校内研修プログラムに盛り込まれるべき内容を【資料2】にまとめた。

【資料2】小学校外国語活動の校内研修プログラムの内容

小学校外国語活動の基本的な考え方について

- ・ねらい、目標、内容等

自校カリキュラムの検討について

- ・モデルカリキュラム等を基に、自校のカリキュラムについて検討

英語活動の指導法について

- ・活動の種類と指導上の留意点
- ・ゲームやチャンツの演習
- ・新たな活動の紹介
- ・教材づくり

授業研究について

- ・授業を見る視点
- ・師範授業（中核教員等によるモデル授業）と追試（そっくり真似てみる）
- ・計画的な研究授業
- ・効果的な授業研究会の進め方
- ・授業力向上を目指した教員のポートフォリオづくり

英語運用能力の向上

- ・クラスルーム・イングリッシュ（英語による指示、いろいろなほめ言葉）
- ・ALTとの共同作業（ALTと一緒に教材づくりなど、何か活動を行う）
- ・教師のための発音上達ワンポイントレッスン

外国語活動の効果の検証、保護者への説明

- ・児童の振り返りシートの活用
- ・児童、保護者へのアンケートの実施

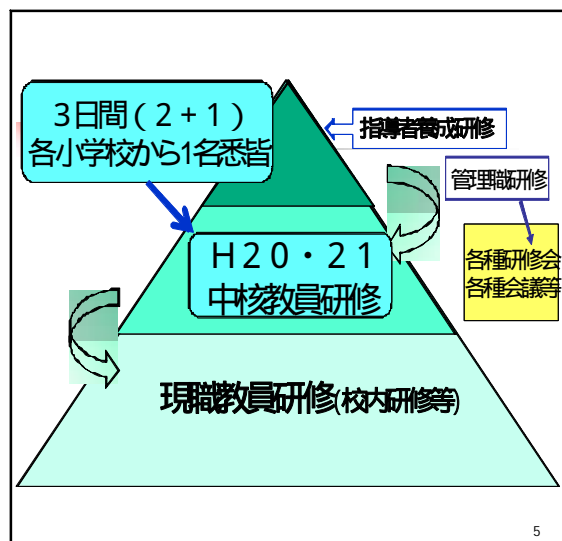
2 研究の方向性の修正

(1) 国の動静

平成20年3月28日に新学習指導要領が告示され、小学校外国語活動の目標や内容等が示された。その後、小学校外国語活動の推進に関わり、「英語ノート試作版」（5年生、6年生）、「英語ノート指導資料」、「英語ノート付属CD」が全国の拠点校に配布された。7月には、小学校

外国語活動研修ガイドブックが全小学校に配布された。今後は、英語ノート用のICTソフトが提示される見通しとなっている。

小学校外国語活動が導入された経緯や基本的な考え方等をどのようにして現職の教師全員に習熟させるかという点については、各都道府県において、平成20年度より2カ年計画で【図1】のように中核教員研修が進められている。本県では、3日間の日程で行われている。中核教員とは、各校において外国語活動を推進できる教師のことである。各校の中核教員がそれぞれの所属校で校長・教頭（副校長）の指導のもと、外国語活動に関する校内研修を円滑に運営し、教師全員に対して外国語活動に関わる内容を習熟させることになる。



【図1】校内研修への流れ

小学校外国語活動研修ガイドブックでは、校内研修の内容は主に、授業指導力向上研修と英語運用能力向上研修の二つに分けられ、校内研修計画の大枠と2年間の校内研修の一例が示されている。しかし、各学校において研修計画を立案する際には、各学校の実態に合わせた研修計画となるよう、創意工夫が必要であるとされている。

小学校外国語活動研修ガイドブックに示されている校内研修計画の大枠を【資料3】に、年間研修計画（例）を【資料4】に示す。

【資料3】校内研修計画の大枠

- (ア) 校内研修は2年間で30時間程度とする（1年目、2年目の実施時間数の内訳は各学校の判断とする）
- (イ) 校内研修の内訳は(1)授業指導力向上研修と(2)英語運用能力向上研修とする
- (ウ) 教材は文部科学省から提供される『英語ノート』、教師用指導資料、『英語ノート』付属CD、電子教材、小学校外国語活動研修ガイドブック、小学校外国語活動研修ガイドブック付属CD、独立行政法人教員研修センター配布のDVD等を使用する

【資料4】年間指導計画（例）

1年目		
学 期	(1)授業指導力向上研修（年間10時間）	(2)英語運用能力向上研修（年間5時間）
1学期	校内研修オリエンテーション （小学校外国語活動・理論編） [1時間程度] 授業研修 [1.5時間] 研究授業と授業研究会 （研究授業・教材作成方法・授業案等検討）	クラスルーム・イングリッシュの意義と活用方法 [1時間] （CD等を利用し、発音、クラスルーム・イングリッシュ等、小学校外国語活動で使われる英語表現の説明と確認）

夏休み	学年別教材作成研修会 [1.5時間] (児童に合った教材作成) 学年別教材作成研修会 [1.5時間] (児童に合った教材作成)	クラスルーム・イングリッシュのブラッシュ ・アップ研修 [2時間] (ALT 等を招いての講習会) 『英語ノート』などにある歌、チャンツ、ゲーム等 の講習会 [2時間]
2 学期	指導主事訪問授業研究会 [1.5時間] (年間指導計画，評価方法，指導案作成) 授業研修 [1.5時間] (研究授業と授業研修会)	(個人研修)
3 学期	1 年間で振り返って 校内協議会 (反省と課題) [1.5時間] (年間指導計画，効果的な教材活用，授業方法等)	(個人研修)
2 年目		
学 期	(1)授業指導力向上研修 (年間10時間)	(2)英語運用能力向上研修 (年間5時間)
1 学期	2 年次校内研修オリエンテーション (自校の課題) [1時間程度] 授業研修 [1.5時間] (研究授業と課題解決「効果的な授業の創造」)	スキル・アップ教材の視聴 [1時間] (チーム・ティーチングで使う基本的な英語表現の 練習，ワークショップ等)
夏休み	学年別指導方法等改善研修会 [1.5時間] (ケース・スタディその1「指導方法」) 学年別指導方法等改善研修会 [1.5時間] (ケース・スタディその2「授業運営」)	校内英語ブラッシュ・アップ研修 [2時間] (ALT を招いてのクラスルーム・イングリッシュやテ ィーム・ティーチングで使う英語表現等の研修会) 活動事例集 (応用編) による歌，チャンツ，ゲーム 等の講習会 [2時間]
2 学期	指導主事訪問授業研究会 [1.5時間] (指導力向上のための指導方法，評価方法等の 検証) 授業研修 [1.5時間] (研究授業とケース・スタディの実践と検証)	(個人研修)
3 学期	2 年間で振り返って 研修会 (成果と課題) [1.5時間] (年間指導計画，効果的な指導方法及び教材活用)	(個人研修)

(2) 研究の方向性の修正

本研究は，小学校外国語活動におけるモデルカリキュラムと校内研修プログラムを作成し，各学校における活用を図ることで，小学校外国語活動の充実と外国語活動指導者の指導力向上に役立てようとするものである。しかし，新学習指導要領が告示となり、それに準拠した「英語ノート」や「英語ノート指導資料」が示されたことで、小学校外国語活動のモデルカリキュラムが示されたことになる。また，前項で述べたように，移行期間中の各校における校内研修の大枠も示され，指導者に対する研修がきわめて重要であるとされている。このことから，本研究では，校内研修プログラムの作成を中心に進めることとし，モデルカリキュラムを実施す

る上で、各校において、どのように校内研修が推進されればよいのかを明らかにすることとした。

3 校内研修プログラムの作成

(1) 校内研修プログラムとは

小学校外国語活動に関わる校内研修を推進するための手引きとし、校内研修計画の作成の手順と一つ一つの研修内容、及びその進め方や研修資料から構成するものとする。研修内容については、各校の実態に応じて必要な内容を選択できるようにする。

(2) 校内研修プログラムの要件について

ア 研究協力員会議から

5月に当センターにおいて、研究協力員会議を行った。今年度は、3校（2校は拠点校、1校はここ数年、地域人材を活用し、効果的なティーム・ティーチングに取り組んできた学校）の先生方に研究協力員を委嘱し、小学校外国語活動の推進上の実践交流や課題等について協議を行った。その場では、次のような課題が出された。

- ・どうしても高学年の先生方に偏った取組になりがちで、小学校外国語活動の基本的な考え方についての共通理解がまだ図られていない。これから、他の業務との調整を図りながらどのように校内研修を進めていけばよいのかという課題がある。
- ・昨年度までの英語活動では、ALTに任せきりであった。しかし、今年度から担任の先生も関わり始めている。具体的に担任がどのように関わればよいのかを模索しているところである。
- ・目標に沿った評価規準や評価方法までは手がついていない状況である。
- ・子どもたちよりも指導者側が英語に対しての抵抗感がある。
- ・他校の実践に学びたいのだが、なかなかそれも難しいため、具体的な指導のイメージができる動画がほしい。
- ・保護者に対して外国語活動に関する説明の場が必要である。

これらの課題を、項目として整理すると以下ようになる。

全教員で取り組む校内体制のあり方
教員（指導者）側の英語に対する抵抗感の払拭
具体的な指導のイメージ（学級担任中心の指導のあり方等）
評価について
保護者への説明

イ 校内研修プログラムの要件

前項で述べた研究協力員会議での現場の先生方の声を考慮し、小学校外国語活動研修ガイドブックの内容に基づいて、校内研修プログラムの要件を【資料5】にまとめた。

【資料5】校内研修プログラムの要件

- 要件1 校内組織の確立と研修計画の立案について
校内組織の確立
自校に合った校内研修計画の立案
- 要件2 小学校外国語活動の基本的な考え方について
小学校外国語活動導入の経緯

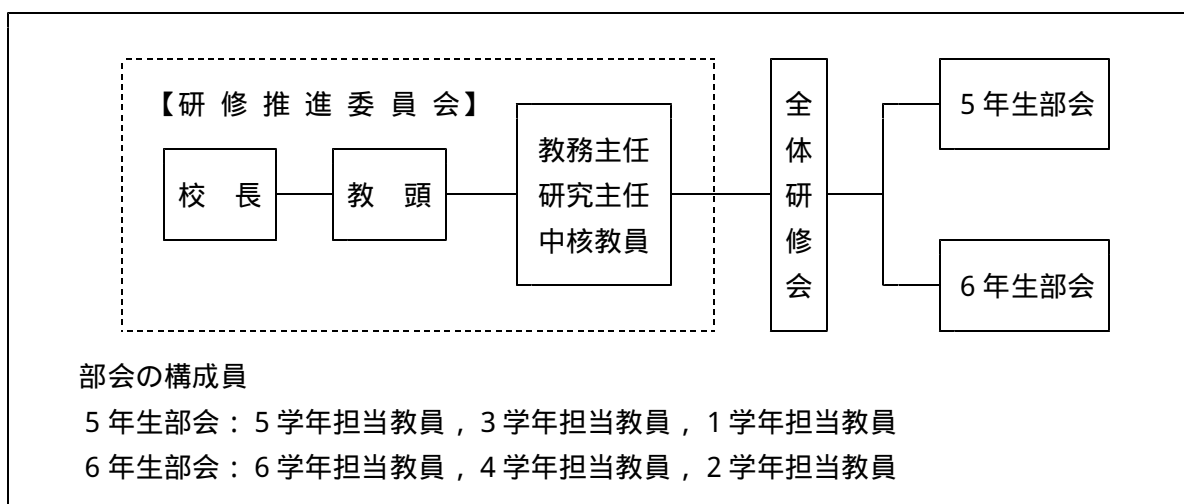
	小学校外国語活動の目標，内容
要件 3	自校カリキュラムの検討について 年間指導計画，単元指導計画の作成 単元・授業の構成方法 評価計画
要件 4	模範授業による外国語活動のイメージ化について ねらいに沿った活動のあり方(チーム・ティーチング・学級担任による単独授業)
要件 5	小学校外国語活動の指導方法について (1) 様々な英語活動の演習と指導上の留意点の理解 「聞くこと」を中心とした活動と「話すこと」を中心とした活動 指導上の留意点 (2) 教材づくり 目標達成に向けた活動のための教材・教具 (3) 英語運用能力向上研修 英語運用能力向上の必要性と方法
要件 6	マイクロティーチングについて 模擬授業によるグループでの問題解決と教師同士の学び合い
要件 7	授業研究会について 授業研究会のねらい 授業研究会の実施方法 授業研究の内容
要件 8	研修のまとめについて 課題の洗い出しと次年度に向けた推進計画

(3) 校内研修プログラムの内容と概要

ア 要件 1：校内組織の確立と研修計画の立案について

(ア) 校内組織の確立

校内研修を充実したものにするためには，校内組織の確立が大切である。実際に外国語活動の指導に当たる第 5 学年，第 6 学年の教師だけでなく，教師全員を対象とする校内研修の推進が求められる。校内組織の確立は，学校規模によって異なるが，その例を【図 2】に示す。



【図 2】校内組織（例）

(イ) 研修計画の立案

移行期間中の校内研修は30時間程度とされているが、その内訳は各校の実態によって異なる。したがって、校内研修プログラムの内容一つ一つについて、各校の実態に合わせた研修計画を立てる必要がある。

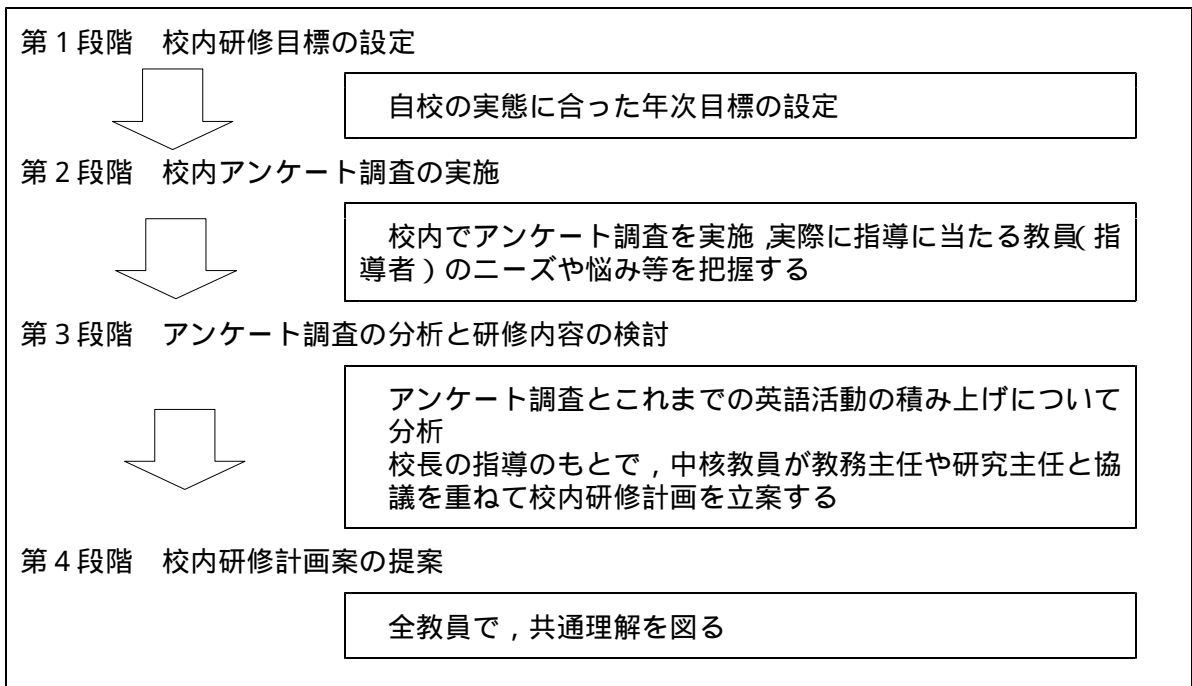
小学校外国語活動研修ガイドブックでは、研修内容の検討に関わり、以下のように述べられている。

校内研修を企画、運営する上で大切なことは、自校の教員がどのような研修を望んでいるかを中核教員がしっかりと把握しておくことである。

具体的には、まず教員にアンケートをとり、外国語活動を実施していく上での不安や校内研修で取り上げてほしい内容など、教員の意見を集め、実態をしっかりと把握しておくことである。

実態を把握した後、校内研修の大きな枠組みを作っていくことになる。校内研修の年間時間数は限られているため、研修計画の作成に当たっては、各学校の実態に合った研修を実施することが大切である。他校が行っていることをそのまま取り入れたり、モデルとして提示された研修を、自校で検討なしにそのまま取り入れる等は避けるべきである。自校の教師が納得し、前向きに、自主的に研修しようという声上がる校内研修となることが大切である。

このことから、具体的な研修計画の立案までの手順を【図3】に示す。



【図3】校内研修計画の立案への流れ

校内研修計画の立案に際し、第1段階として、2年間の校内研修をとおして、指導に当たる教師がどのような姿になっていけばよいかという研修の目標が必要であると考え。そこで、目指す教師像を【資料6】のように設定する。そして、その教師像に迫るために移行期間内にどのようなことに重点を置いた研修を行えばよいかについて1年次目標と2年次目標も設定する。

年次目標は、これから本格的に外国語活動に取り組もうとする学校をイメージして考えたものである。先進校は独自の年次目標を設定することが望ましいと考える。例えば、「児童の実態に合った開発教材の作成」や「学級担任による単独授業における電子黒板の効果的な活用の仕方」等、各校の実態に応じたものが様々考えられる。より自校の実態に合った年次目標を設定するためには、ワークショップ型の研究会を行い、課題の共有化を図ることも有効な手段である。

(ワークショップ型研究会については、岩手県立総合教育センター『校内授業研究の進め方ガイドブック』, <http://www1.iwate-ed.jp/tantou/kyoryo/seika/jugyouken/index.html> を参照のこと。)

【資料6】校内研修で目指す教師像と年次目標

校内組織の確立と研修計画の立案

1-1 研修の目標を設定しよう

移行期間の中で、外国語活動の基本的な考えに基づいた授業実践を繰り返し、不安を自信に変えて平成23年度を迎えなければなりません。そのために、具体的な研修の目標(目指す教師像)を掲げて、校内研修に取り組みましょう。

目指す教師像

- ① 外国語活動のねらいや指導方法について理解している。
- ② 児童と共に外国語活動を楽しんでいる。
- ③ 外国語活動の授業改善についての見通しをもつことができる。

1年次目標

- ☆ 外国語活動の目標や内容について理解する
- ☆ 外国語活動のイメージをつかむ
- ☆ 基本的な指導方法や教材・教具の活用の仕方がわかる
- ☆ 簡単なクラスルーム・イングリッシュを用いる

2年次目標

- ☆ 外国語活動の目標や内容について理解を深める
- ☆ ねらいに沿った活動が展開できる
- ☆ 効果的な指導や教材・教具の活用ができる
- ☆ クラスルーム・イングリッシュの幅を広げる

外国語活動を始めるに当たり、基本理念や目標、内容について正しく理解することが第一です。また、実際に指導では、目標に沿った活動となるよう、学級担任に求められる役割が大きくなりました。

これから本格的に外国語活動への準備を始める学校は、上記のような目標を掲げて取り組んでみてはどうでしょう。

これまでの英語活動の振り返り、自校の実態に合った研修目標を掲げ、全職員で取り組みましょう。



これまでの英語活動の蓄積がある学校は、WS型研究会を設定することで、課題を共有化して、研修目標を決めることもできるでしょう。

【参考文献：WS型校内研究会について】

岩手県総合教育センター『校内授業研究の進め方ガイドブック』

<http://www1.iwate-ed.jp/tantou/kyoryo/seika/jugyouken/index.html>

第2段階、第3段階については、【資料7】に、第4段階については、【資料8】に校内研修プログラムの実際を示す。

【資料7】校内研修計画の立案に関わる校内研修プログラムの実際

第2段階

校内アンケート調査の実施

校内研修の内容として、「どんなことを」「どれだけ」「どのように」行うのかは、各学校の実態によって変わってきます。自校の実態がどうなのかについて分析してみましょう。

全職員にアンケートをとり、外国語活動を実施していく上での不安や校内研修で取り上げてほしい内容など、教員の意見を集めて把握しておくことである。実態を把握した後、校内研修の作成に当たっては、各学校の実態に合った研修を実施することが大切である。他校が行っていることをそのまま取り入れたり、モデルとして提示された研修を検討しにそのまま取り入れる等は避けるべきである。自校の教師が納得し、前向きに、自主的に研修しようという声がある校内研修となることが大切である。
小学校外国語活動研修ガイドブック P.13「教師の実態把握と必要とされる研修内容の検討」

研修内容を検討する際に、以下のようなアンケートを実施してみるのもよいでしょう。

研究推進だより ○○市立○○小学校 研究部

小学校外国語活動に関するアンケート

これから、外国語活動の研修を推進していくことになります。みなさんと一緒に私も不安で一杯です。みんなが不安を少しずつ取り除いていけるような校内研修をしていきたいと考えています。そこで、研修計画の立案に際し、みなさんのご意見をまとめ、研修計画を提案したいと思っております。どうぞお願いします。

- 移行期間の授業時数として、どれくらいが適当だと考えますか。
【平成21年度】
ア 10時間程度 イ 12~20時間 ウ 20~30時間 = 35時間
【平成22年度】
ア 10時間程度 イ 12~20時間 ウ 20~30時間 = 35時間
その他：()
- あなたはこれまでの英語活動をどのように進めてきましたか。(本校以外での実践を含む)
- 不安なことについて何でも書いてください。(自由記述)
- 校内研修で、取り上げてもらいたいことは何ですか。(自由記述)

提出期限：○月○日 研究部□□まで

第2段階

アンケート調査の分析と研修内容の検討

自校の実態調査を集計・分析し、教師がどんな研修を望んでいるのかやこれまで行ってきた英語活動の実績を考慮して、具体的な研修計画を立てなければなりません。次の項目について、自校の実態について考えてみましょう。

項目	自校(教師)の実態	研修の方向性
1 外国語活動の実践に関する教員の共通理解はどうか		
2 高学年で、英語活動を年間どれだけ行ってきたか	(例) ALT が来校した時だけで、年間8時間実施	(例) 平成21年度は12時間(3単元分)、平成22年度は24時間(6単元分)とする
3 英語活動の主な活動内容はどんなものだったか		
4 英語活動の年間指導計画や単元指導計画が作成されているか		
5 英語活動の指導形態はTTか担任の単独授業か	(例) ALT との TT で実施、時々、交流活動を行った	(例) 平成21年度は、TTのあり方を中心に進める
6 英語活動に関わって授業の編成や指導の中心は誰か	(例) ALT に任せることが多かった	(例) TT の指導形態の中で、学級担任の役割を理解する
7 英語活動で使用した教員が共有できる状況になっているか		
8 英語活動に関する校内研修が設定されてきたか		
9 これまで英語活動の先進校に動いていた教員がいるか		
10 中学校との連携の機会はあるか		



特に、これから本格的な取組を始める学校は、2年間を見通した研修計画を立てるようにしましょう。

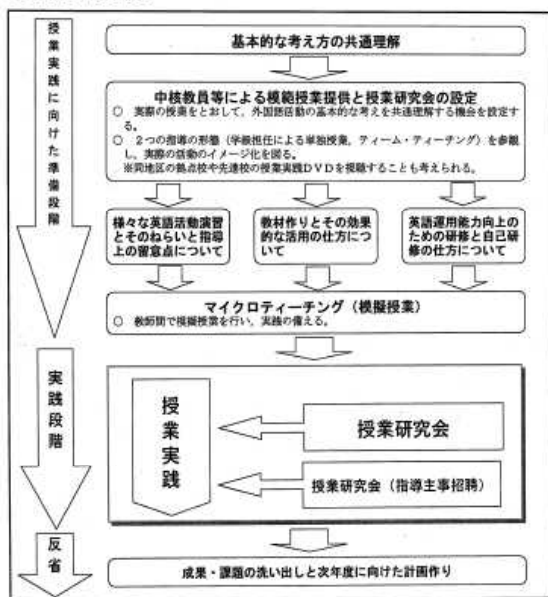


小学校外国語活動ガイドブックでは、中核教員が中心となり、校長の指導のもと、教務主任や研究主任と協議を重ねながら研修計画を立てることになるとされている。

第3段階

アンケート調査の分析と研修内容の検討

校内研修の流れは、「授業実践に向けた準備段階」「実践段階」「反省」の3つの段階に分かれ、下の図のようになります。



これから本格的に外国語活動を始めようとする学校にとっては、「授業実践に向けた準備段階」に含まれる研修内容がどうしても多くなります。したがって、平成21年度の授業実践をいつから始めるのか、実践期間はどれくらいか研修計画づくりにおいて大きなポイントとなります。

第3段階

アンケート調査の分析と研修内容の検討

具体的な研修計画を立てる際には、学校行事や地域の実態等を考慮しなければなりません。外国語活動が導入され、新たに目標や内容が示されたため、外国語活動が導入に至った経緯や基本的な考え方等についての理論研修は、各校に欠かせない研修事項となります。しかし、実際の授業を進める上での、指導方法に関わる研修内容については、「どんなことを」「どれだけ」「どのように」といった研修の度合いが異なります。

研修事項	校内研修計画		
	年度	平成21年度	平成22年度
理論研修	4月	入学式・家庭訪問 等	5月
模範授業	5月	運動会 その他	6月
英語活動演習	6月	修学旅行 その他	7月
教材づくり	7月	学期末処理 その他	8月
英語運用能力向上研修	8月	水泳大会 その他	9月
マイクロティーチング	9月	陸上競技 その他	10月
授業研究会	10月	学習発表会	11月
授業研究会	11月	授業実践	12月
研修のまとめ	12月	学期末処理 その他	1月
	2月		3月
	3月		4月



理論研修は一度や二度行ったからといってその内容をすべて理解できるものではありません。実際に外国語活動をやっていく中で理解が深まることが多いです。そこで、折に随れ、理論研修で取り上げたことをさまざまな校内研修の場で、教師全員で確認していくことが大切です。

【資料8】校内研修計画(例)

年度		平成20年度			平成21年度			平成22年度		
年間時数		平成20年度計画により実施			9~12時間が目標 各学校の実態(平成20年度までの推進状況)に応じて決定			16~24時間が目標 各学校の実態(平成21年度までの推進状況)に応じて決定		
学期	月	授業指導力向上研修	英語運用能力向上研修	研修時間	授業指導力向上研修	英語運用能力向上研修	研修時間	授業指導力向上研修	英語運用能力向上研修	研修時間
一学期	4月				校内研③(新年度計画会議) 研修計画の確認			校内研⑩(新年度計画会議) 研修計画の確認		
	5月				校内研④(オリエンテーション) 【理論についての共通理解】 ねらい、目標、内容、学級担任の役割、評価、等			校内研⑪ 【先進実践校の授業DVD視聴】 ・ねらいに沿った外国語活動活動の在り方 ・クラスルームイングリッシュのブラッシュアップ研修(表現の幅を広げるために)		
	6月				校内研⑤ 【中核教員による模範授業】 ねらいに沿った活動の在り方について、実際の授業を見て、イメージ化を図る。			校内研⑫ (ALTまたは英語の堪能な人材を招聘) 【英語運用能力向上研修】 活動の種類…チャッツ、歌、ゲーム、 クラスルームイングリッシュ		
	7月				校内研⑥(ALTまたは英語の堪能な人材を招聘) (1)様々な活動の演習と活動のねらいや指導上の留意点 (2)教材作りとその効果的な活用仕方について (3)英語運用能力向上のための研修と自己研修の仕方					
	夏休み									
二学期	8月				校内研⑦ 【マイクロティーチング】			校内研⑬ 【マイクロティーチング】		
	9月							校内研⑭ 【中核教員による模範授業】 ねらいに沿った活動の在り方について、実際の授業を見て、イメージ化を図る。		
	10月				校内研⑧ 【授業研究会】			校内研⑮ 【授業研究会】		
	11月				校内研⑨(指導主事招聘) 【授業研究会】			校内研⑯ 【授業研究会】		
	12月				中核教員は平成21年度の校内研修について総括し、次年度に向けた推進試案を校長の指導のもとに、教務主任や研究主任とともに作成する。					
冬休み	1月	校内研① 【理論…概論の共通理解】 ねらい、目標、内容、学級担任の役割、評価、Q&A等	・校長の指導のもと、中核教員は平成21年度の小学校外国語活動の全体計画から年間指導計画・指導方法・研修計画等を教務主任や研究主任とともに作成する。		校内研⑩ 【反省と課題の洗い出し】					
	2月				校内研⑯を受け、校長の指導のもとに、次年度に向けた計画を作成する。特に自校の課題を明確にし、その課題に対応できる計画を立案する。			校内研⑰(指導主事招聘)		
	3月	校内研②(次年度計画会議) 【次年度の方向性を確認】 ・年間指導計画 ・指導方法 ・研修計画 等			校内研⑱(次年度計画会議) 【次年度の方向性を確認】 平成21年度の校内研修をもとに、自校の課題への対応と質の高まりを目指した校内研修の全体計画を確認する。			校内研⑲ 【反省と課題の洗い出し】		
春休み								校内研 【完全実施に向けた確認】		

校内研の後半10分程度を利用した集合研修・自己研修(簡単な英語表現・C.E)

授業実践による指導力向上

校内研の後半10分程度を利用した集合研修・自己研修(簡単な英語表現・C.E)

授業実践による指導力向上

【資料 8】の校内研修計画（例）は，これまでの英語活動に対して全校体制で積み上げがあまりなされてこなかった小学校をイメージし，作成の視点を以下のように考えたものである。

【授業指導力向上研修について】

授業指導力向上研修では，外国語活動の目標に沿った活動が展開されるよう，理論研修が大切である。理論について実践をとおしながら理解を深めていくようにする。

移行初年度は 2 学期より 8 ～ 12 時間の授業実践を行う。8 ～ 12 時間は英語ノートの年間指導計画では，2 ～ 3 単元分に相当し，主にティーム・ティーチングによる指導形態を中心に，学級担任の役割についての実践をとおしながら理解を深めることに重点を置く。1 学期間は，授業実践に向けた準備段階として計画した。移行 2 年目は，16 ～ 24 時間の授業実践を行う。英語ノートでは，4 ～ 6 単元分に相当する。指導形態に関わっては，ティーム・ティーチングの効果的なあり方についての研修を深めるとともに，学級担任による単独授業にも計画的に取り組んでいく。

【英語運用能力向上研修について】

英語運用能力向上に関わる研修では，1 年間に一度は，外部から講師を招き，全教員でクラスルーム・イングリッシュを中心とした研修を行う。英語運用能力は短期間での向上は難しいため，授業実践の中で，最初から多くの英語を使おうとするのではなく，実践を積み重ねながら表現の幅を広げていく。また，校内研修を行う度に，10 分程度の練習や演習場面を設定しながら，少しずつ向上を目指していく。

イ 要件 2：小学校外国語活動の基本的な考え方について

要件 2 は理論研修である。外国語活動が導入に至った経緯や目標及び内容について理解を深める研修である。この小学校外国語活動は新たな領域であるため，その基本的な考え方について理解することは必要不可欠である。この研修を進める方法として，学習指導要領や解説，または小学校外国語活動研修ガイドブック等を校内で読み合わせることが考えられるが，より効果的な研修が図られるように，その補助となるパワーポイント資料を作成することとする。その具体例として，外国語活動の目標に関わる資料を【資料 9】に示す。

【資料 9】外国語活動の目標に関わる資料

第 2 章 目標及び内容 第 1 節 外国語活動 (解説 p.7)

第 1 目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

13

《解説》

外国語活動の目標は、「外国語を通して，…外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う。」です。この目標の中で，「慣れ親しませながら」の後の「，」がポイントです。「慣れ親しませながらコミュニケーション能力の…」であれば，この目標がスキルの習得を目指しているように受け取れるからです。

外国語活動の目標を区切ると...

外国語を通じて、

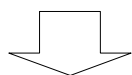
言語や文化について体験的に理解を深め 小中高共通

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り

外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、

中学校との接続・連携

コミュニケーション能力の素地を養う



外国語活動のイメージ(資料A)

イメージ画

コミュニケーション
能力の素地

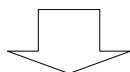
外国語を通じて、
言語や文化について
体験的に理解を深める

外国語を通じて、
積極的にコミュニケーションを
図ろうとする態度の育成を図る

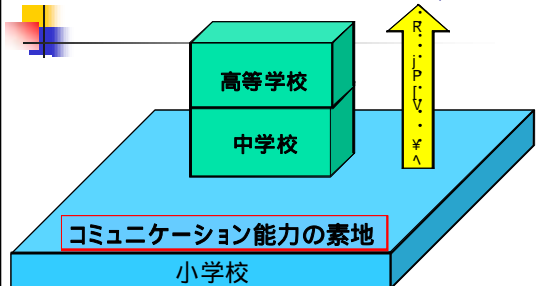
外国語を通じて、
外国語の音声や基本的な
表現に慣れ親しませる

© IAN Masuda

16



小・中・高の英語教育のイメージ(資料A)



15

《解説》

この目標は、3つの柱から構成されます。一つ目は、「言語や文化についての理解」で、二つ目は、「コミュニケーションへの積極性」、三つ目は、「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」です。

《解説》

これらの3つの柱は、不可分に結びついているということがポイントです。3つの柱が図のようにからまり合っています。つまり、一つ目の柱である「言語や文化についての理解」については、コミュニケーション活動と切り離して個別に指導されるべきものではないということを理解しておかなければなりません。

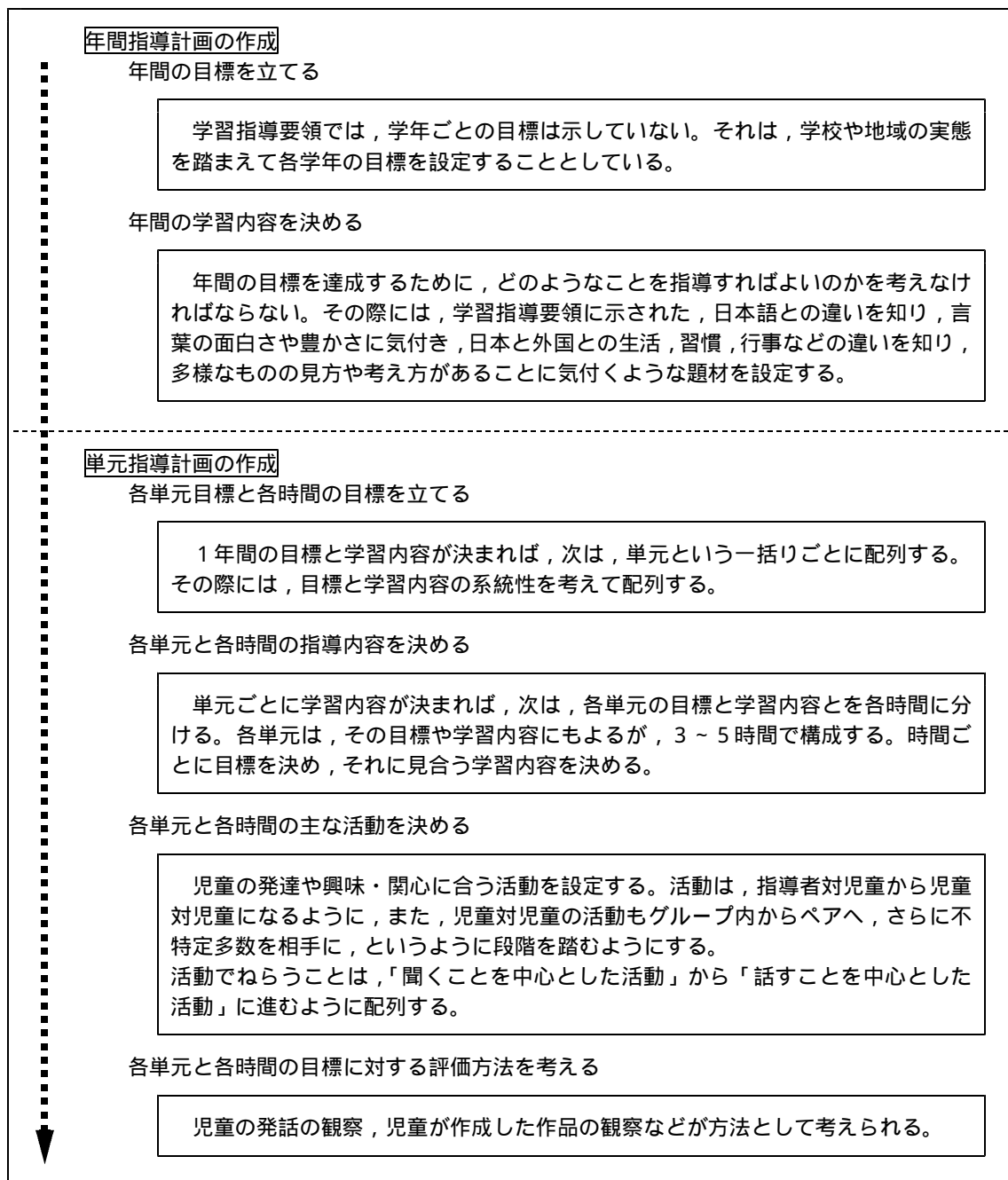
《解説》

図は、小・中・高の英語教育のイメージです。小学校段階では、英語を使うことを原則として外国語活動が行われます。その活動の中で、言語や文化への気付きやコミュニケーションの大切さや面白さ等を体験的に学びながら、コミュニケーション能力の素地を育成していくことになります。そして、国語力の向上にも相乗的に資する...

ウ 要件3：自校カリキュラムの検討について

外国語活動の目標に迫るために、「年間指導計画」、「単元指導計画」等を作成しなければならない。これは、各校の実態に合っていないとすればならず、これまでの英語活動の積み上げがどうだったかによって異なる。これから本格的に外国語活動に取り組む学校においては、小学校外国語活動研修ガイドブック(pp.25-26)に示されている指導計画を活用することになる。しかし、先進的に英語活動を推進してきた小学校においては、既に独自のカリキュラムが作成されており、今後、外国語活動の目標に沿ったカリキュラムへの修正が図られなけ

ればならない。そこで、既存の年間指導計画や単元指導計画を見直す視点として、年間指導計画と単元指導計画の作成の手順を【図4】に示す。



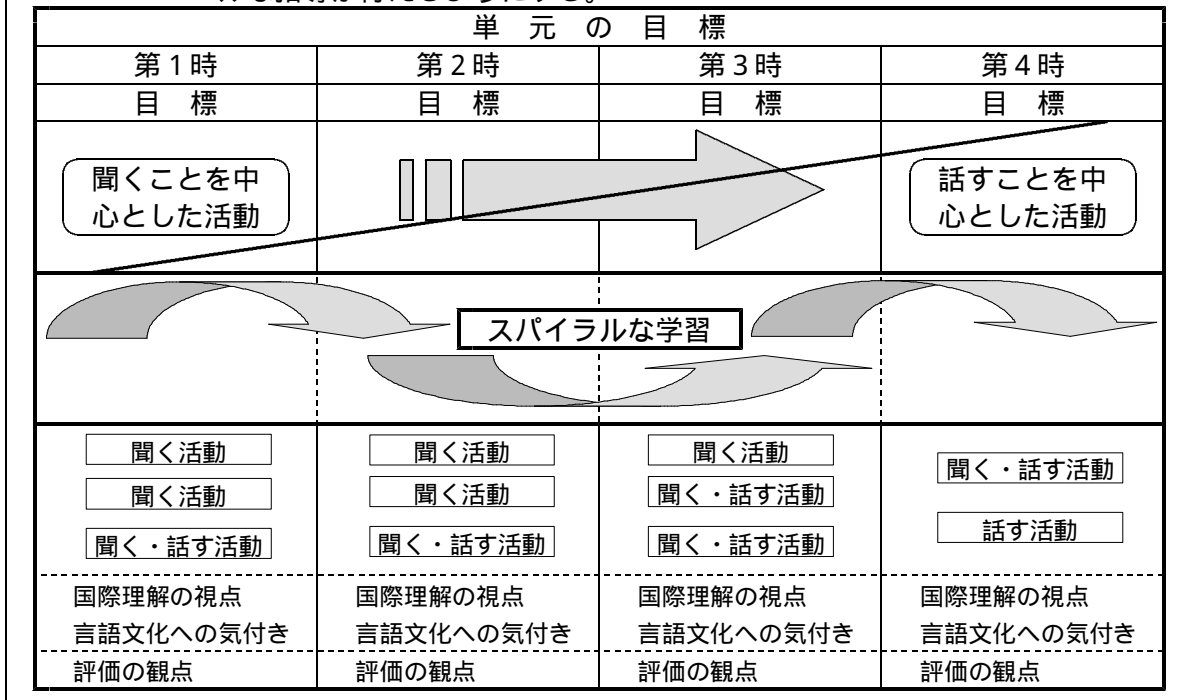
【図4】年間指導計画と単元指導計画の作成の手順

実際の作成例として、年間指導計画は小学校外国語活動研修ガイドブックに示されている。ここでは、単元指導計画の例を【資料10】に示す。また、単元の構成は、単元の目標によっても異なるが、言語習得理論に基づいて、「聞く活動から口まねする活動」、「記憶したり自分のものにしたたりする活動」、「自分の意思で選んで発話する活動」へと流れるように設定されている。1時間の授業の中には、目標に合った2～4種類の活動が含まれ、時間を追いながらスパイラルな学習を展開し、徐々にコミュニケーション場面で使用する表現に慣れ親しむことができるようになっていく。その単元の流れを【図5】に示す。

【資料10】単元指導計画例

単元指導計画：英語ノート 第6学年 Lesson 9「将来の夢を紹介しよう」		
時	目標()と主な活動(・)	評価
1	職業を表す様々な語を知る ・指導者の昔と今の夢を聞く ・「ジェスチャー・クイズ」指導者がするジェスチャーを見て、それが何の職業かを当てる ・CDを聞いて、それがどの絵のことか発表する ・「ビンゴ・ゲーム」をする [Let's Play] ・チャンツ When I grow up を言う [Let's Chant]	・職業を表す語を聞き取って、積極的にゲームをしようとする 行動観察
2	職業を表す語に慣れ親しみ、将来の夢についての話を聞き、その内容を理解する ・「ビンゴ・ゲーム」をする [Let's Play] ・CDを聞いてわかったことを吹き出しに書く。 [Let's Listen] ・チャンツ When I grow up を言う [Let's Chant]	・将来の夢についてまとめた話を聞き、理解する 行動観察 ノートチェック
3	将来就きたい職業について尋ねたり答えたりする ・「チェーン・ゲーム」をする [Let's Play] ・インタビューをする ・スピーチ・メモを作成する [Activity 1] ・チャンツ When I grow up を言う [Let's Chant]	・将来就きたい職業について尋ねたり答えたりする 行動観察
4	スピーチ・メモをもとに自分の将来の夢を紹介する ・「チェーン・ゲーム」をする [Let's Play] ・スピーチ・メモをもとに自分の将来の夢を紹介する [Activity 1] ・チャンツ When I grow up を言う [Let's Chant]	・スピーチ・メモを作成し、それをもとに将来の夢を紹介する 行動観察

【ポイント】...音声中心に「聞くこと」から「話すこと」へと進めていく。また、スパイラルな指導が行えるようにする。



【図5】単元の構成

エ 要件4：模範授業による外国語活動のイメージ化について

ねらいに沿った外国語活動は、どうあればよいのかについて校内の教師全員にイメージ化してもらうために模範授業が必要となる。模範授業後には、授業研究会を設定し、「授業の目標が何だったのか」、「場面場面の活動のねらいは何だったのか」、「評価をどのように行ったのか」等について、授業者から説明したり、質疑を取るなどして、外国語活動の目標に沿った活動のあり方について共通理解を図っていく。授業研究会を設定する際には、授業を見る

授業構成の仕方

ウォーム・アップ

- ・外国語を学習する意欲・雰囲気、緊張をほぐす
- あいさつ、歌・チャンツ、簡単なゲーム、など

本時の学習内容の導入（復習）

- ・ジェスチャーや具体物など、理解を助ける工夫
- 絵本の読み聞かせ、DVDの視聴、歌・チャンツ など

活動

- ・聞く・口真似る 記憶・自分のものにする
- 歌・チャンツ、ゲーム、クイズ など

展開・発展活動

- ・記憶・自分のものにする 自分の意志で選んで発話する
- コミュニケーション活動、タスク など

まとめ・評価、振り返り

- ・コミュニケーションを図ろうとする態度面
- ・英語面（二の次・結果としてついてくる、言語への気付きを取り上げる）
- ・児童からの振り返り（どこがどうよかったのか）

【図6】授業構成の仕方

視点を示すことが効果的である。授業研究会において、どの視点を重視するかは各校の実態によって変わってくる。これは、年次計画に沿った形で、重点を決めることになる。例えば、「ティーム・ティーチングの指導形態での担任の果たすべき役割について」や「単独授業を行った際の、効果的な教材の活用」だったりである。1時間の授業の構成について、その流れを【図6】で示す。また、「京都市小学校英語活動研究会」が作成した指導案を参考にした指導案例を【資料11】に示す。

【資料11】外国語活動指導案例

外国語活動指導案

日時：平成 年 月 日（ ） 校時
場所：第 6 学年 組 教室
対象児童：第 6 学年 組（ 名）
指導者：

- 1 単元名 「将来の夢を紹介しよう」
- 2 単元について
(省略)
- 3 単元の目標
 - (1) 言語や文化に関すること
 - ・
 - (2) コミュニケーションに関すること
 - ・
 - (3) 音声や基本的な表現に慣れ親しむことに関すること
 - ・
- 4 語彙・表現
 - ・単語
 - ・ねらいとなる表現
- 5 児童の様子
(本時に至るまでの外国語活動に関する様子)
- 6 単元指導計画

時	目標（ ）と主な活動（・）	評 価
1	(省略)	(省略)
2	(省略)	(省略)
3	(省略)	(省略)
4	(省略)	(省略)

7 展開案

時	児童の活動	指導者の活動	指導上の留意点(・)評価の観点()
導入 5分	・挨拶をする。 Hello, ~ sensei. I'm good/hungry/hot.	・挨拶をする。 Hello, everyone. How are you?	・外国語活動の始まりを児童が意識できるように、指導者自らが元気よく挨拶する。
展開 分	・指導者の話を聞き、質問に答える。 「先生だね。」 「エンジニアだよ。」 「歌手だよ。」	・昔就きたかった職業、これから就きたい職業をジェスチャーを付けて紹介する。 My dream. My 6 nensei dream. What's my dream?	・児童は当然職業を表す語を知らないため、児童が日本語で答えた職業を、指導者が英語に直して、自分の昔とこれから就きたい職業とを紹介する。
終末 3分	・振り返りをする。 本時に自分がかんばれたこと、友だちの良かった面などを発表する。 ・挨拶する。	・本時にがんばれたことや楽しかったことについて尋ねる。 ・英語を使おうとする態度面でよかったことを言う。 ・挨拶する。	・具体的に児童のがんばっている姿をほめることで、次時への意欲をもたせて終わるようにする。

オ 要件5：小学校外国語活動の指導方法について

(ア) 様々な英語活動の演習と指導上の留意点の理解

英語ノートでは、様々な英語活動が単元の構成の項で示したような目的に沿って配列されている。その様々な活動を演習をとおしながら指導方法を理解し、それぞれの活動のねらいや指導上の留意点を理解することが大切である。校内研修では、中核教員が活動のモデルを示し、その活動のねらいを説明しながら、共通理解を図っていくことが必要である。

先進校においては、英語ノートに含まれる様々な活動以外にも実践していると考えられるが、校内研修を補助するものとして、英語ノートに示されたいくつかの活動の動画とそのねらいを提示する。

(イ) 教材づくり

教材・教具の作成においても、外国語活動の目標から離れてはいけない。学級担任が、児童の興味・関心を観察し、児童の生活に関連させるなど、児童の実態に合った教材・教具を活用しなければならない。他教科の授業と関連付けた児童の手作りの教材を活用することも有効である。

研修の時期としては、長期休業中に教師全員で取り組むことが考えられる。教師全員で作成することにより、学校全体での外国語活動に取り組む雰囲気生まれ、現在は低学年の担任などで実際に外国語活動の指導を行わない教員も、いずれ外国語活動の指導に当たる際にそのイメージをもつことにもつながる。教材・教具の作成も、外国語活動も目標に沿った大切な校内研修の一環であり、学級担任任せにせず、グループ化した集団内で行うことが望ましい。また、ALTや英語が堪能な地域人材とのチーム・ティーチングを行う場合にも、共同作業をすることが望ましい。

(ウ) 英語運用能力向上研修

外国語活動の指導者には3つのことが求められているが、その一つに、「英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませることができること」がある。指導者も英語を使うよいモデルとして、児童の前でできるだけ英語を使うように努力したいところである。英語運用能力研修を頻繁に行うことは不可能であり、短期間で英語運用能力が向上するものでもないため、毎回の外国語活動で言うフレーズや文を決めて、自然な場面で必ずそれを口にするようにする。例えば、「今日は、"Very good"と言って、必ず児童をほめよう」と決め、児童が発話しようとしたり、一生懸命聞いていたり、グループで協力して活動していたときなどにジェスチャーを付け、「よくがんばったね、とってもいいよ」という思いを込めて、"Very good!"と発話していく。

研修の方向性として、年1回は外部講師としてALTや地域の英語が堪能な人材、または中学校の英語教員を講師に招いて教師全員で演習形式で研修を行う。その後は、自己研修となるが、授業実践を積み重ねる中で、教師も外国語活動の目標にあるように「慣れ親しみながら」英語運用能力の向上を図っていく。「自己評価表」を作成し、ポートフォリオとしてファイリングしておけば、1年間の自己研修を振り返ることができ、授業改善に役立てることができる。「自己評価表」の例を【資料12】に示す。

【資料12】自己研修のための自己評価表の例

外国語活動 「自己評価表」

授業日：平成 年 月 日()
 指導単元：Lesson ()の()時間目
 今回の計画

使おうとする英語表現	使用場面

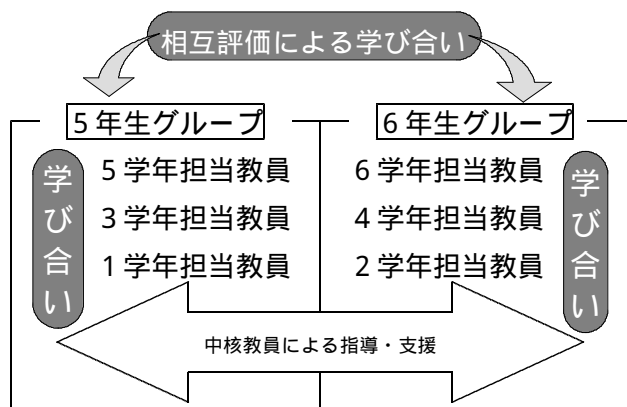
授業を振り返って(次回への抱負)

研修の方向性として、年1回は外部講師としてALTや地域の英語が堪能な人材、または中学校の英語教員を講師に招いて教師全員で演習形式で研修を行う。その後は、自己研修となるが、授業実践を積み重ねる

中で、教師も外国語活動の目標にあるように「慣れ親しみながら」英語運用能力の向上を図っていく。「自己評価表」を作成し、ポートフォリオとしてファイリングしておけば、1年間の自己研修を振り返ることができ、授業改善に役立てることができる。「自己評価表」の例を【資料12】に示す。

カ 要件6：マイクロティーチングについて

マイクロティーチングとは、教師のグループ内で「指導案作成」から「教材等の準備」を行い、「模擬授業」から「授業の評価」までの一連の流れを実際に体験するものである。授業実践に入る前に、マイクロティーチングは欠かすことのできない研修である。グループで問題解決に当たる研修であり、教師同士が学び合う貴重な体験をすることができる。マイクロティーチングを体験することで、指導者は少しでも安心して授業実践を迎えることができる。グループづくりは、学校規模によるが、全教師が確実に研修に参加できる校内体制を確立して行うようにしたい。グループ化の例を【図7】に示す。マイクロティーチングの発表は時間に十分配慮し、手際よく進められるように事前に手順等を共通理解しておく必要がある。また、お互いのグループによる相互評価を行う。事前に、ポイントになることを示しておけば、更に効果が上がる。



【図7】教師のグループ化の例

グループづくりは、学校規模によるが、全教師が確実に研修に参加できる校内体制を確立して行うようにしたい。グループ化の例を【図7】に示す。マイクロティーチングの発表は時間に十分配慮し、手際よく進められるように事前に手順等を共通理解しておく必要がある。また、お互いのグループによる相互評価を行う。事前に、ポイントになることを示しておけば、更に効果が上がる。

キ 要件7：授業研究会について

授業研究会を設定するねらいとして次のことが挙げられている。

教師個々の指導力向上を図り，学校として教師の一定水準の力を維持・向上する。
教師の共通理解を図り，指導力向上へ向けての共通の目標を持つ。
全教員が，授業を通して他クラスの児童の実態を見ることにより，悩みや問題点，課題等を共有する。
優れた指導法や教材開発の技法を，授業を通して直接学ぶことで，個々の指導技術の向上を図る。

授業研究会を設定する際には，協議の中心となる内容について，事前に授業を見る視点を示しておくことが効果的である。どの視点を重視するかは各校の実態によって変わってくる。

1年間に授業研究会を何度設定できるかは，各校の研修計画によって異なるが，指導主事を招聘し，積極的に指導を受け，自校の外国語活動の研修の推進の方向性を再確認し，共通理解を図っていく必要がある。

ク 要件8：研修のまとめについて

校内研修の成果と課題を視点を設けて洗い出し，次年度に向けた推進計画を立案する。研修のまとめの視点を例として示す。

校内組織に関すること
組織化した研修の推進ができたか（中核教員をサポートできたかも含む）
教師全員が校内研修に取り組むことができたか
指導力向上研修に関すること
年次目標に沿った内容
（例）「外国語活動の目標や内容について理解できたか」
「外国語活動のイメージをつかむことができたか」
「基本的な指導方法や教材・教具の活用の仕方がわかったか」
英語運用能力向上研修
年次目標に沿った内容
（例）「簡単なクラスルーム・イングリッシュを用いることができたか」
（例）「自己評価表」に基づいた自己研修の検証
研修時数に関すること
時期や研修の回数は適切だったか
カリキュラムに関すること
年間指導計画はできたか
単元指導計画はできたか
評価計画はできたか
外部連携に関すること
中学校との連携
拠点校や先進校から学ぶ機会の設定
保護者説明に関すること
外国語活動を授業参観で公開

4 小学校外国語活動の推進に関する研究のまとめ

本年度の目標は，国から示されたモデルカリキュラムを実施する上で，小学校外国語活動の基本的な考え方の理解や指導力向上を図るための校内研修がどのように推進されればよいのかについて，校内研修プログラムを作成し，提示することであった。その成果と課題を以下にまとめる。

(1) 成果

ア 小学校外国語活動研修ガイドブックと研究協力員会議で協議した内容に基づいて、校内研修プログラムの内容と概要を示すことができた。

イ 第1年次の研究では、目指す教師像として3点を研修の目標として示したが、2年の移行期間において、どのようにしてその目指す教師像に迫るかについて指導力向上と英語運用能力向上の両面から第1年次目標、第2年次目標として示した。

(2) 課題

校内研修プログラムを実際に各校で活用を図り、有効性を検証していくこと。

研究のまとめと今後の課題

本研究は、本県の小学校外国語活動の充実と外国語活動指導者の指導力向上に資するため、本県における小学校外国語活動のモデルカリキュラムを作成すると共に、実践的指導力の向上を図るための校内研修プログラムを作成し、提示することである。

第1年次研究では、「小学校外国語活動推進に関する基本的な考え方」、「小学校モデルカリキュラム作成の視点」、「教師の実践的指導力の向上を図るための校内研修プログラムの要件」について、分析と考察を行った。

第2年次である今年度は、平成20年度3月以降、国から学習指導要領や外国語活動の指導に関わる資料が示されたことで、モデルカリキュラムが示されたこととなり、校内研修プログラムの作成を中心に行った。

2年間の研究の成果と課題については、以下のようにまとめる。

1 研究の成果

移行期間に各校でどのように校内研修を推進していけばよいのかについて、その手引きとして校内研修プログラムの内容と概要を示すことができた。

2 今後の課題

来年度以降、外国語活動に関わる校内研修が推進されていく中で、ニーズが具体化してくるものと考えられる。そのようなニーズに応えることができる校内研修プログラムに修正・改善を図っていくこと。

おわりに

この研究を進めるに当たり、研究協力員としてご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

【引用文献】

文部科学省、『小学校外国語活動研修ガイドブック』，pp.4-5，pp.13-14，p.72

菅 正隆(2008)，『平成20年度北海道・東北ブロック小学校外国語活動指導者養成研修講座資料』，「外国語活動の目標のイメージ(絵)」

【参考文献】

大城 賢・直山木綿子(2008)，『小学校学習指導要領の解説と展開，外国語活動編』，教育出版